

令和5年度 環境で地域を元気にする
地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業

キックオフミーティング 配布資料

活動団体名：千葉県木更津市

活動地域：木更津市全域

活動におけるテーマ

『きさらづ地域循環共生圏の創造』

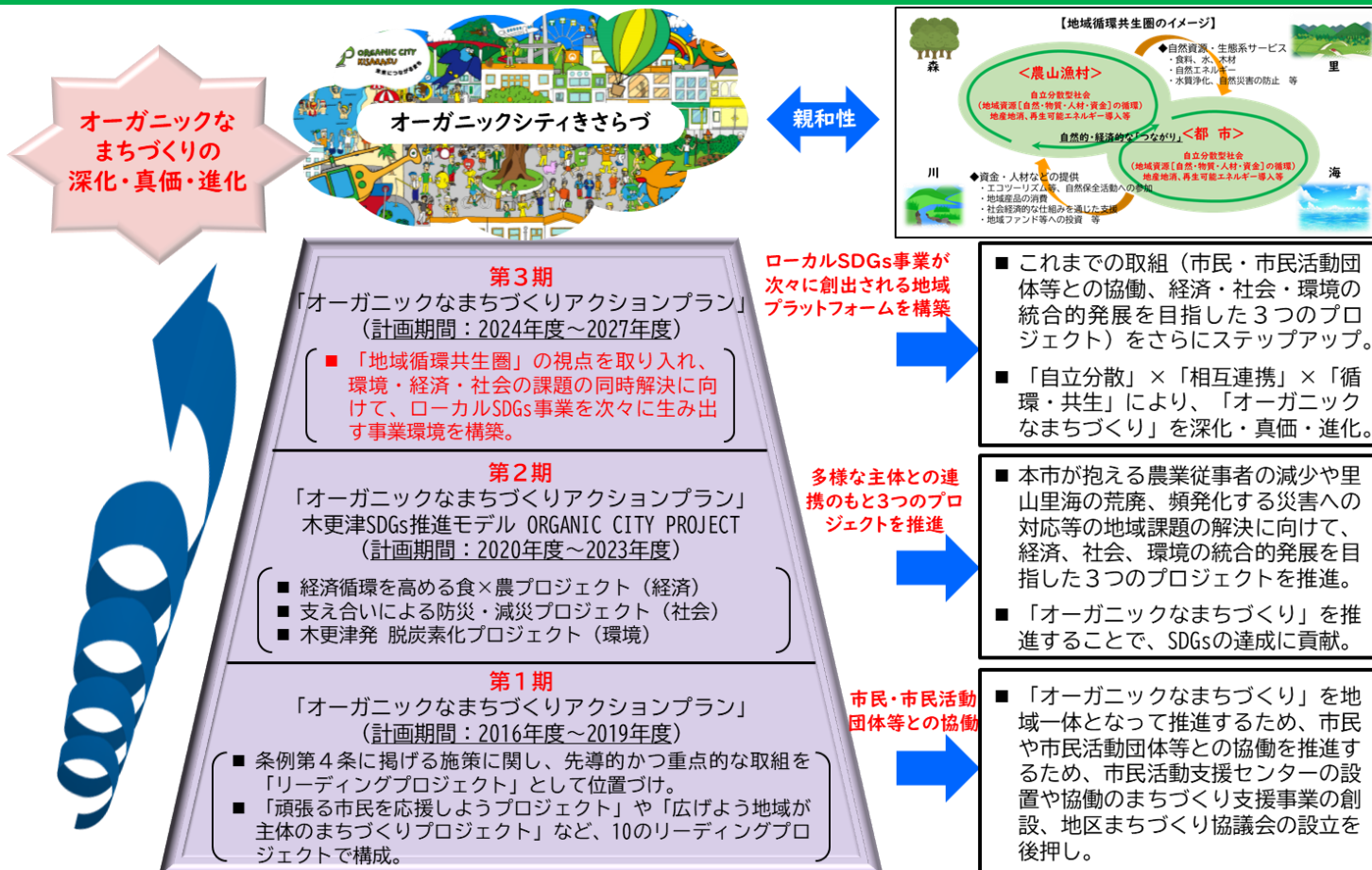
本事業への関わり：1年目

活動団体と地域の紹介

オーガニックシティきさらづ

- 「オーガニック」の意味をまちづくりに当てはめ、まちを構成する多様な主体が、自ら考え、それぞれの役割を果たし、互いにつながり、支え合っていく。
- 「オーガニック」を合言葉に、「環境や社会に対する思いを共有して、希望ある未来を創ること」を目指し、総合計画を補完する「まちづくりの方向性」として提唱。

「オーガニックなまちづくり」と地域循環共生圏の位置づけ



活動計画（概要）

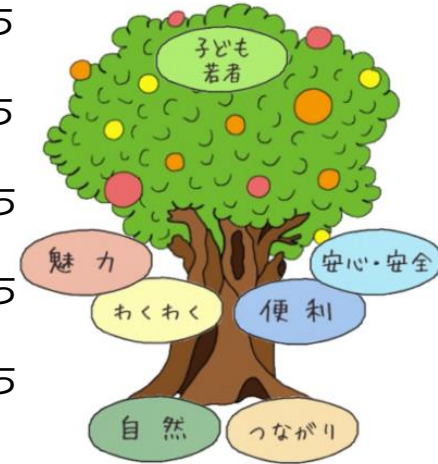
地域プラットフォームを形成して 解決したい地域の課題

- 人口の偏在化・高齢化
- 一次産業の衰退
- 里海・里山の荒廃
- つながりの希薄化
- 投資・労働力・エネルギーの流出



地域の課題が解決された状態

- 日本初の「オーガニックシティ」の確立
- 令和4年度に市民で組織した「きさらづ未来会議」の提言書（7つの未来ビジョン）の実現
 - ① 人のつながりのあるまち
 - ② 自然とともにあるまち
 - ③ 人を呼ぶ魅力のあるまち
 - ④ 誰もが安心して暮らせるまち
 - ⑤ 子ども・若者が育つ環境のあるまち
 - ⑥ わくわくして暮らせるまち
 - ⑦ 生活が便利なまち



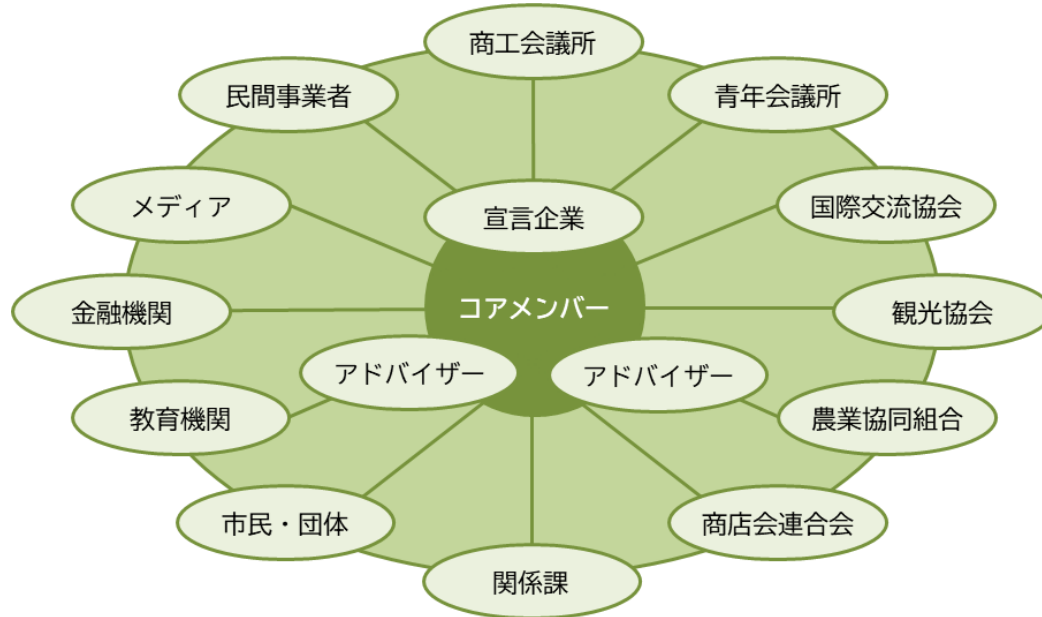
環境整備を通して構築する“地域プラットフォーム”のイメージ（体制、機能、規模感、等）

木更津市が掲げる「オーガニックなまちづくり」を地域一体となって推進するため、庁内における横断的な推進体制を構築する。

また、専門的な見地からの議論を深めるため、有識者・実務者のアドバイザーを導入するとともに、マンダラの策定に向け、多様なステークホルダーと対話を重ね、地域プラットフォームの構築を目指す。

目指す“地域プラットフォーム”のイメージ

現時点での体制



専門的な見地からの議論を深めるため、有識者・実務者のアドバイザーを導入する。

また、マンダラの策定に向け、どのようなステークホルダーと対話をすべきかを勘案し、多様な主体と対話を重ね、地域プラットフォームの構築を目指す。

足りない資源（ヒト、モノ、資金、情報、等）※地域内、外も含む

- ・ 経済的・社会的価値の創出により、環境分野から課題解決に資するビジネスモデル
- ・ 民間事業者の取組を促進させるための資金

年間スケジュール

